

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点

学校種間の接続・一貫性を追求した実践事例

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

福岡県田川市

○学校名

田川市立鎮西小学校

○学校のURL

<http://kyouiku.joho.tagawa.fukuoka.jp/HPCNZS01/index.html>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】全学年2学級、【特別支援学級】2学級、【合計】14学級

○児童生徒数

【全児童数】375人（平成24年5月1日現在）
（1年生66人、2年生68人、3年生55人、4年生61人、5年生57人、
6年生68人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

「学ぶ意欲と、思いやりの心をもったたくましい子どもの育成」

【校区研究主題】

「自己効力感を高め、たくましく生きる子どもの育成」
～豊かに表現し、自らの学びを見つめる学習活動の工夫～

【鎮西校区の目指す子ども像】

自分の将来像を抱き、その目標実現のために

○意欲をもち、主体的に取り組もうとする子ども [志向性]

○努力し、達成する喜びを実感できる子ども [実行性]

○自分の考え方や生き方に自信と誇りをもつことができる子ども [受容性]

○人権教育にかかる取組の全体概要

【小中が連携した人権教育の構想：人権教育総合推進地域事業】

鎮西校区のめざす子ども像の具現化を図るために、人権が尊重される「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」を基盤として、学力向上、望ましい生き方の構築、望ましい生活習慣の確立の観点から、

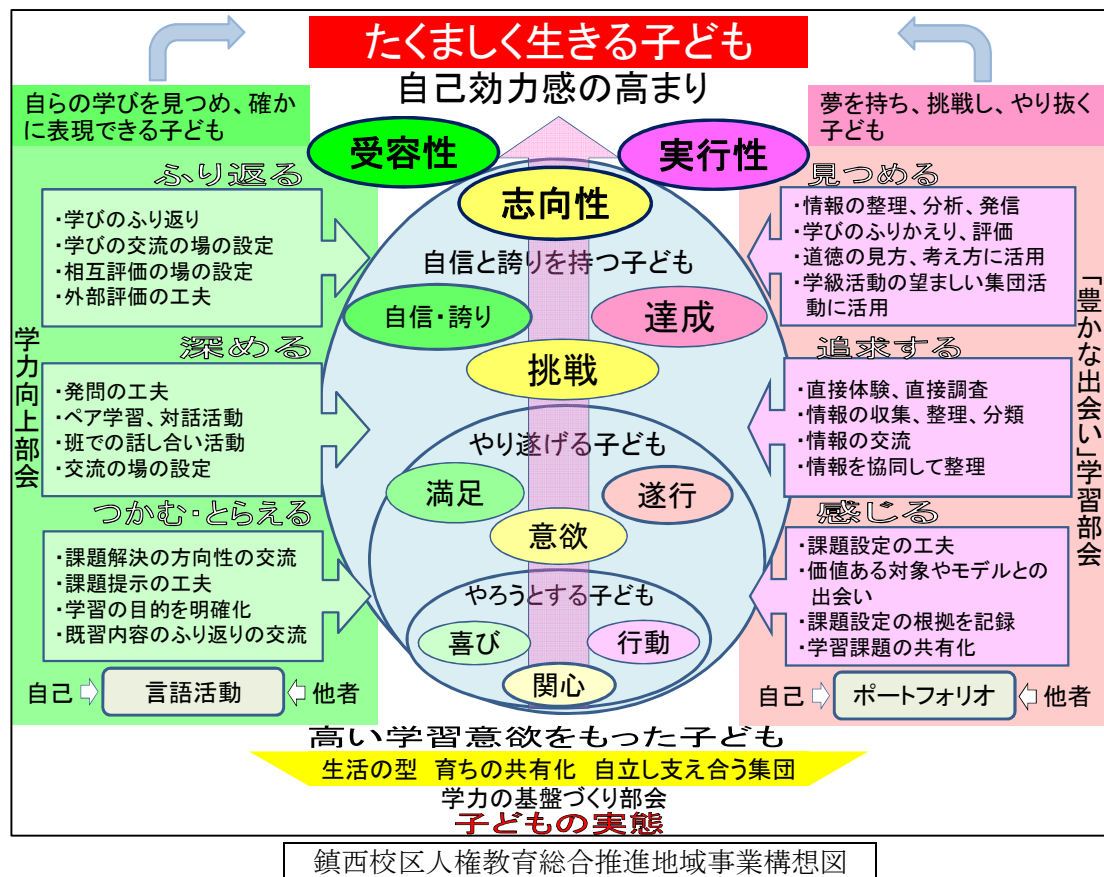
○学力向上部会

○「豊かな出会い」学習部会

○学力の基盤づくり部会

の3部会を設定し、実践を行う。

3部会の総合的な取組により、「志向性」「実行性」「受容性」をもつ、自己効力感が高まった、たくましく生きる子どもが育つと考える。



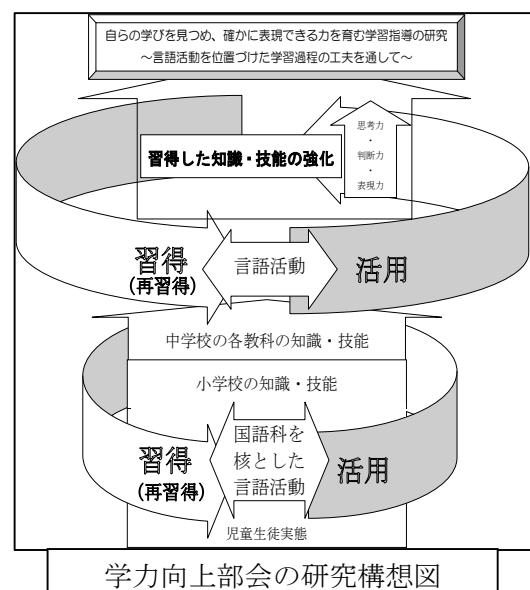
3. 特色ある実践事例の内容

◆ 学力向上部会の取組内容

研究主題を「自らの学びを見つめ、確かに表現できる子どもを育てる学習指導の研究」とし、右構想図のように小中のつながりを意識して、言語活動を位置づけた学習過程の工夫を行う。

言語活動の内容については、以下の表のように整理した。1単位時間における言語活動を自己内の活動（自分の考えをつくる活動・自分の考えを再構築する活動）、他者との活動（自分の考えを伝達したり、見直したりする活動）として、それぞれの学習段階への位置づけを工夫するようにした。

このことは、本時の目標を達成することと併せて、本校区の課題であり、人権教育を通じて育てたい資質・能力である自己効力感を高めることにつながると考えた。



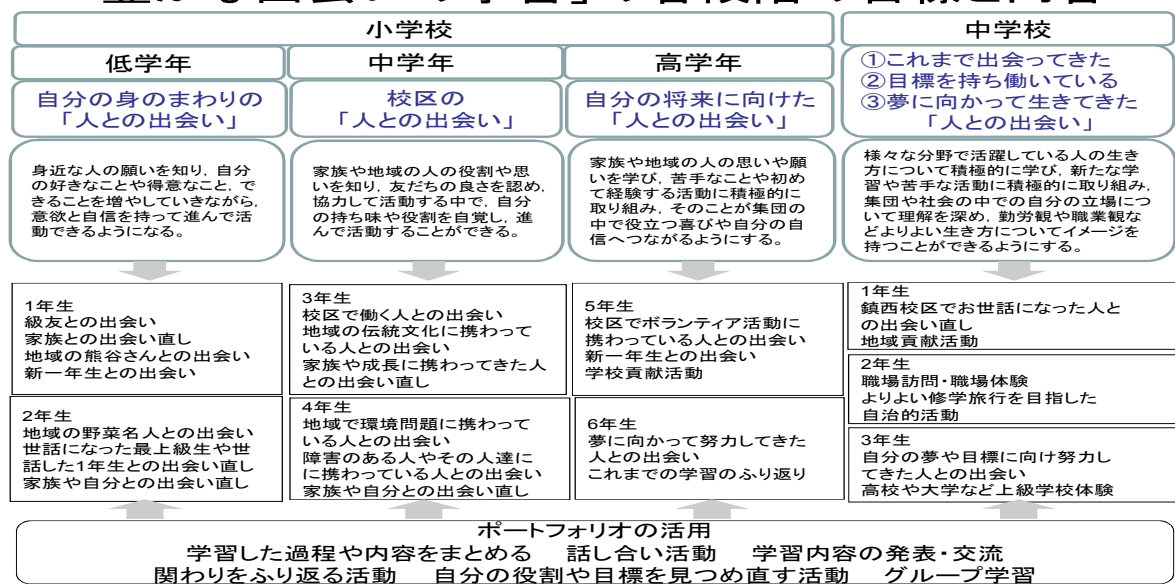
流 れ	内 容	言 語 活 動	
		自 己 (自分の考えをつくる活動) (自分の考えを再構築する活動)	他 者 (自分の考えを伝えたり 見直したりする活動)
導入 (つかむ)	学習課題・めあてを明確につかむ (学習課題の設定の工夫)	ワークシート等を活用し ふり返る	班やペアでふり返りの 交流
見通し (とらえる)	課題解決のための見通しを持つ (自分なりの見通しを持つ)	課題の設定から、課題解決 のための方向性を探る。	課題解決のための方向性を 交流する
展開 (深める)	学習内容を理解し、学習課題を 解決する	資料等を活用し解決してい く。	課題解決のために、ペア学習 や対話活動、班交流、全体交 流の中で解決していく。
まとめ (ふり返る)	学習内容を振り返り、めあてにて らして、学習のまとめを記述する。	学びのふり返り 学びの評価・価値づけ	学びの交流

自己と他者の言語活動の流れと内容

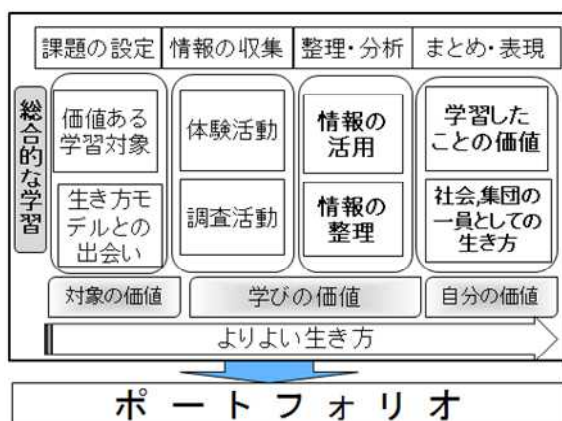
◆ 「豊かな出会い」学習部会の取組内容

研究主題を「夢を持ち、挑戦し、やり抜く子どもを育てる『豊かな出会い』学習の研究」とし、学習して得た情報や自分で考えたよりよい生き方を記したポートフォリオの活用を主たる手だてとして、実践を行う。各学年における「豊かな出会い」学習の目標と内容は下図の通りである。

「豊かな出会いの学習」の各段階の目標と内容



「豊かな出会い」学習の各段階の目標と内容

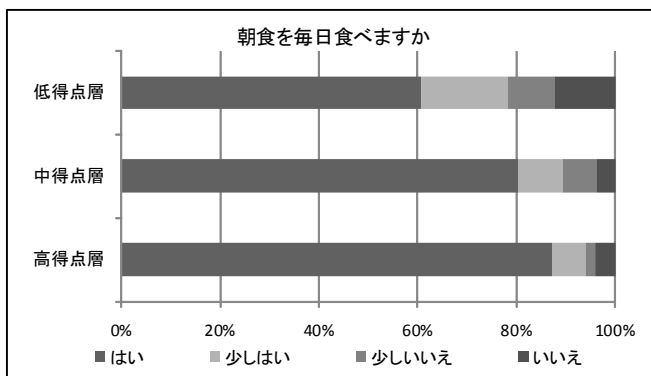


ポートフォリオの活用については、「豊かな出会い」学習の課題解決の過程の各段階において、自己の学びを蓄積・整理することと他者との交流に活用することに重点を置き、学びを深めるとともに、学んだことを自己と結びつけて自己の成長を自覚したり、自己の生き方を考えたりできるようにする。

◆ 「学力の基盤づくり」部会の取組内容

研究主題を「高い学習意欲をもった子どもを育てる、育ちの土台づくりの研究」とし、家庭・地域・教育関係機関と連携・協働した教育活動によって、子どもを取り巻く環境を整え、子どもの育ちを支えていくことを目指す。

「学習・生活アンケート」から、「朝食を毎日食べますか」などの生活習慣に関わる7項目のうち5項目が学力と相関があるという結果がでている。しかしながら、本校区の子どもは単親家庭や経済的な支援が必要な家庭などさまざまな生活背景をかかえており、教育的な環境が厳しい家庭では、望ましい生活習慣や学習習慣が身についていない課題が浮き彫りになっている。また、学力の低下とともに子どもの自尊感情が低下していることも学力問題の一つの要因ではないかと考える。



平成21年度 学習・生活アンケート

そこで、学力の基盤づくり部会では、小中学校を中心に保育園や高校、大学との縦の接続を密にし、家庭や地域、教育関係機関との横の連携を深めていくことが必要であると考えた。そして、「自分をちゃんとみている。」「自分を大切に思ってくれている。」ということ子どもに実感させたり、望ましい生活習慣や学習習慣を身につけさせたりして、自尊感情を高め、生活意欲や学習意欲の向上を図ることを目指した。

4. 実践事例の実績、実施による効果

(取組が効果を上げた実際の事例)

◆ 学力向上部会の事例

第6学年国語科 伝統文化を楽しみ、音読発表会をしよう
「伝えられてきたもの」「狂言柿山伏」「柿山伏について」

特に本時において、次のような言語活動の工夫を行った。

- 自分の音読をふり返らせる学習場面において、工夫できていたところやもっと工夫できるところ、友だちの音読で学んだこと、自分の音読に取り入れて工夫したいこと、自分の個別のめあて等をふり返り修正したいことなどを記述表現する活動を位置づける。(自己)



小集団での交流

- 「柿山伏」を工夫して音読の練習をする場面において、狂言のおもしろさや楽しさが伝わる音読の工夫についてアドバイスし合ったり、よかったところを伝え合ったりする交流活動を位置づける。(他者)

小学校低学年から中学校まで、言語活動として自己内の活動だけでなく、他者との活動も意図的に取り入れてきた。このことから以下のように、自分と友だちとの学び合いを通して、再度自己や他者の考えを見直し、自らの学びを見つめ、深めようとする子どもの姿が見られるようになっている。



音読発表会の様子

読んだ後、班の人からアドバイスやよかったところを付箋に書いてもらうとうれしかったです。直した方がいいところや付け加えなどが分かっていいなと思いました。わかると次にいかせるからです。何人かいるといろいろな意見が出ていいなと思いました。

(6年児童の自学ノートより)

このように、自己の学びを深め、次の意欲へつなげる営みを小中で積み重ねていくことは、自己尊重の感情や自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を育むものであり、自己効力感を高めることにもなった。国語科のねらいを達成するための手だてが、人権教育を通じて育てたい資質・能力としての自己効力感を高めることにもなり、相乗的な効果を上げることができた。

◆ 「豊かな出会い」部会の事例

第3学年総合的な学習の時間 鎮西の宝をみつけようパート1

「鎮西の宝マップをつくろう」

本事例では、「鎮西の宝みつけ」という課題を設定し、鎮西校区の伝統や文化、豊かな自然、地域をより豊かにする施設などが地域の人々の協力で作られ、守られてきた素晴らしさを体験したり、友達と協力して調査したりする。そして、地域に色々な職業があることや人の関わりや思い、今に続く伝統や施設など発見した宝をグループで発表し、共有して「鎮西の宝マップ」を作ることができるように取り組んだ。

鎮西の宝をみつけよう	
【鎮西の宝】宝探しをして、もったくさんの「宝」をみつけよう。 ・自分たちが調べた宝をここに記入しよう。 ・宝の場所や特徴を記入しよう。 ・宝の由来や歴史を記入しよう。	①カニの宝 【鎮西の宝】カニの宝をみつけよう。 ・自分たちが調べた宝をここに記入しよう。 ・宝の場所や特徴を記入しよう。 ・宝の由来や歴史を記入しよう。
②魚の宝 【鎮西の宝】魚の宝をみつけよう。 ・自分たちが調べた宝をここに記入しよう。 ・宝の場所や特徴を記入しよう。 ・宝の由来や歴史を記入しよう。	③お祭りの宝 【鎮西の宝】お祭りの宝をみつけよう。 ・自分たちが調べた宝をここに記入しよう。 ・宝の場所や特徴を記入しよう。 ・宝の由来や歴史を記入しよう。
④お寺の宝 【鎮西の宝】お寺の宝をみつけよう。 ・自分たちが調べた宝をここに記入しよう。 ・宝の場所や特徴を記入しよう。 ・宝の由来や歴史を記入しよう。	⑤お城の宝 【鎮西の宝】お城の宝をみつけよう。 ・自分たちが調べた宝をここに記入しよう。 ・宝の場所や特徴を記入しよう。 ・宝の由来や歴史を記入しよう。

ポートフォリオに記録したグループの宝



保育園グループの発表

自分の調べてきたことを発表したり、友だちの発表を聞いたりする「鎮西の宝」交流会の場面では、ポートフォリオの活用を、「伝えたいことを決める」（自己）と「キャッチフレーズを話し合い、宝の意味を交流する」（他者）と設定した。

子どもたちは、他のグループの発表を聞いて見つけた鎮西の宝をポートフォリオに記録して、それぞれの施設やそこに関わる人の思いの大切さに気づくことができた。また、ポートフォリオをもとに、意見や考えを交流することで鎮西の宝が何かをより深く見つめることができ、多くの宝が鎮西にあることを振り返りに書くことができた。

このようなポートフォリオの活用は、学んだことを他者と効果的に交流したり、日常生活や自己の生き方につなげたりする上で有効に働き、その過程において、人とのコミュニケーションを大切にしたり、他者と協力・共同して学習に取り組んだり、自他の違いを認め人を尊重したりするなど、人権教育を通じて育てたい資質・能力の側面からも効果があった。

また、全国学力・学習状況調査の児童質問紙の解答から、下記の項目が全国値より高くなっており、「豊かな出会い」学習が、夢を持ち、挑戦し、やり抜く子どもの育成につながったと考える。

①失敗をおそれず挑戦する②将来の夢をもっている③学級で約束を決めている④「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは普段の生活や社会に出たときに役に立つ

小中9年間での「豊かな出会い」学習を系統的・継続的な人権教育として実践したことで、各発達段階における望ましい生き方としてモデルを学ぶことができ、将来に対するイメージや展望について具体的に考えさせることができた。

◆ 「学力の基盤づくり」部会の事例

家庭・地域・教育関係機関と連携・協働した教育活動
学校間種の接続を意識した実践

【小中の連携】

「中1ギャップ」の克服の一つとして、小学校6年生を対象に「中1アンケート」を行っている。中学生になって楽しみなことや心配なことを事前に把握し、それを踏まえて、中学校説明会・体験授業を実施している。今年度は、保護者への説明会は中学校職員が行い、児童への説明会や校舎探検は生徒会が中心に行った。説明会の中で、中学校1年生が入学後の1年間を振り返り、がんばったことや、もう少し努力すればよかったことなどをランキング形式で発表した。体験授業後のアンケートでは「中学生になる心構えができた。」や「不安が減った。」などがあった。



新入生体験授業

【保小の連携】

「小一プロブレム」克服の取組として、校区内の保育園の年長児を対象に給食体験や買物体験を行っている。給食体験では5年生（入学後のお世話学年）が園児をサポートしている。また、買物の経験不足という実態から、1年生がいろいろなお店を開き、来年度入学予定の園児の買物体験（お金を払い、おつりをもらう）を行っている。園児の小学校への不安を少しでも取り除くこと、1年生にとっては自分の成長を確かめること、5年生には最上級生としての自覚を持たせる活動として、とても有効だった。



保育園児の小学校給食体験

【大学との連携】

福岡県立大学の連携事業として「鎮西プロジェクト」を立ち上げた。このことにより小中学校と大学との連携、また、地域との連携が充実した。「鎮西プロジェクト」主催の「どろんこドッジボール大会」ではたくさんの保護者や地域の方、大学生が協力し、子どもといっしょに交流することができた。また、大学生のボランティアが小学校の授業のアシスタントをしたり、中学校の部活動指導の手伝いをしたりしていただいている。



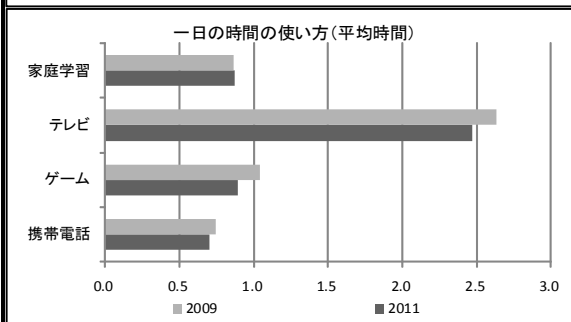
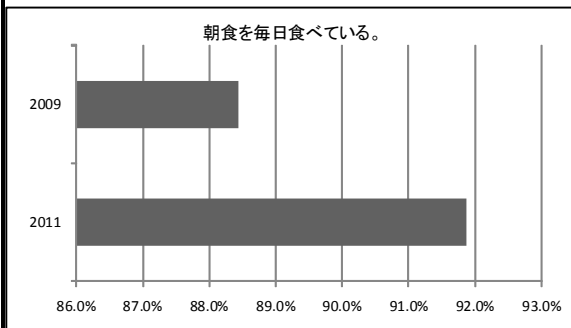
どろんこドッジボール大会

【保小中の連携】

小学校教師の保育士体験や保小中合同授業研修会を実施した。保育士体験では、校区の保育所において小中学校の教師が1日保育士体験を行った。保育士の細かな援助、肯定的な声かけに学ぶことも多く、保育園の「手づくり給食」を年長の園児たちと一緒に食べながら園児と教師が交流することができた。連携・協働の取組を推進しながら、子どもへの接し方・関わり方の共通理解を図ろうと取り組んでいる。



小中教員の保育士体験



学習・生活アンケート

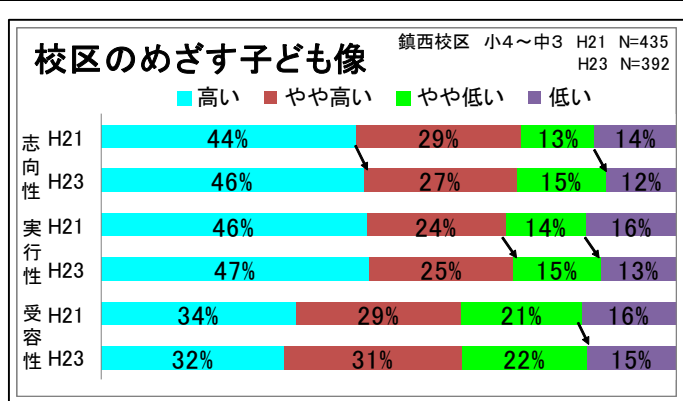
このような取組を通して、田川市で実施している「学習・生活アンケート」の平成21年度と平成23年度を比較すると、朝食の摂取率が3.4ポイント上昇し91.9%となった。これは、保護者からアイデアを募集し作成した朝食レシピ集の配布や“新”家庭教育宣言「親子の約束ノート」の取組、栄養教諭による保護者や地域の方への食育啓発活動の成果と考える。

また、子どもの1日の時間の使い方を見ると、テレビの視聴時間やゲームの時間、携帯電話の使用時間がわずかながら減少している。それにともない家庭学習の時間は増加している。

保小中が連携した教育活動や地域との協働の教育活動を行ったことは、子どもに達成感と有用感をもたらし、自分の存在意義を感じ取らせることができた。こうした体験の積み重ねが、次の活動や学習への意欲の高まりにつながると考えられる。

5. 実践事例についての評価

人権教育総合推進地域事業として、各部会で小中でのめざす子ども像を設定し取組を進めてきたことにより、手だてを明確にした教育活動が展開でき、各部会において一定の成果を上げることができた。校区のめざす子ども像においては（右表参照）、志向性、実行性、受容性ともに低位層の子どもの減少が見られた。



鎮西校区のめざす子ども像の変容

また、志向性、実行性については僅かではあるが全体的な高まりが見られる。しかし、受容性については課題が残った。今後、自己評価、相互評価の在り方についての研究が必要である。

「挑戦し、やり遂げ、自信と誇りを持つ」というこの有機的なサイクルを、各教育機関、家庭、地域が連携協働した教育活動の中で、丁寧に繰り返し積み上げていくことが今後求められる。



人権教育総合推進地域事業を通して明らかになった成果や方向性を継承・発展させていくことは、福岡県の学校教育における人権教育の目標である「人権尊重の精神の育成」と「進路と学力の保障」を追究することであり、鎮西校区のたくましく生きる子どもを育む教育文化を創造することにつながると思う。

		めざす子ども	学習を通して育てたい能力や態度				1学期	
			人間関係調整力	情報活用力	将来設計力	意志決定力		
1年	保護者・保育士	自分の身のまわりの人との出会い	①家族や自分の身の周りの人の願いを知り、自分の好きなことや得意なこと、できることを見つめることができる。	自分の好きなことや嫌いなことをはっきり言う。 （自他の理解能力） 自分の考えをみんなの前で話す。 （コミュニケーション能力）	身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心を持つ。 （情報収集・探索能力） 係や当番活動に取り組む、それらの大切さが分かる。 （職業理解能力）	家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。 （役割把握・認識能力） 決められた時間やきまりを守ろうとする。 （計画実行能力）	自分の好きなもの、大切なものを持つ。 （選択能力） 自分のことは、自分で行おうとする。 （課題解決能力）	【友だちになろうよ（生・道）】 みんなの前で自己紹介をし、友だちになる。 【保育士さんへの手紙（国）】 入学してから自分でできるようになったこと、がんばっていることをお世話になった保育士さんに手紙で知らせる。その後、保育士さんから返事をもらい、手紙の交流を通して、いつまでも見守ってくださっていることや成長の喜びを感じる。
2年			保護者・保育士	②自分の好きなことや得意なことを増やしていきながら、意欲と自信を持って進んで活動できるようになる。				
3年	校区の人	校区の人との出会い	①家族や地域の人の役割や思いを知り、友だちや関わりのある人と協力して活動することができる。	自分の生活を支えている人に感謝する。 （自他の理解能力） 友だちと協力して、学習や活動に取り組む。 （コミュニケーション能力）	いろいろな職業や生き方が分かる。 （情報収集・探索能力） 係や当番活動に積極的に関わる。 （職業理解能力）	互いの役割や役割分担の必要性が分かる。 （役割把握・認識能力） 将来の夢や希望をもつ。 （計画実行能力）	自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。 （選択能力） 自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。 （課題解決能力）	【鎮西の宝を見つけようパート1～鎮西宝マップをつくろう～（総）】 様々な人が、いろんな想いで仕事をしたり役割を果たしたりしている。そんな地域の人に出会いながら、鎮西校区のすばらしさを友だちと協力してまとめたり、交流したりする。この学習を通して、学習の進め方を身につける。
4年			田川の人	②友だちや関わりのある人のよさを見つめることができる。				
5年	ボランティア	自分の将来に向けた人との出会い	①地域の人や家族の生き方や仕事に対する思い、自分たちに対する願いを学び、苦手なことや初めて経験する活動に積極的に取り組もうとする。	話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。 （自他の理解能力） 思いやりの気持ちを持ち相手の立場に立って考え行動しようとする。 （コミュニケーション能力）	自分に必要な情報を探す。 （情報収集・探索能力） 学んだり体験したことと、生活や職業との関連を考える。 （職業理解能力）	社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。 （役割把握・認識能力） 憧れとする職業をもち、今、しなければならないことを考える。 （計画実行能力）	係活動などで自分のやりたい係、やれそうな係を選ぶ。 （選択能力） 将来の夢や希望を持ち、実現をめざして努力しようとする。 （課題解決能力）	【ボランティアって何（総）】 「手弁当の会」の方と木工細工教室で交流し、ボランティアとは何か、学習課題を設定する。また、地域でボランティアをされている方のことを調べ、ボランティアについての話を聞く。
6年			将来の夢	②その活動を振り返り、集団の中での存在感や仲間との信頼感、自分の達成感を感じとることができる。				
中1	出会い直し	人これまでの出会い直してきた	①地域の人や様々な分野で活躍している人の生き方や努力、苦悩や喜びについて積極的に学び、新たな学習や苦手な活動に積極的に取り組むことができる。	自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重する。 （自他の理解能力） 人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。 （コミュニケーション能力）	生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用する。 （情報収集・探索能力） 将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する。 （職業理解能力）	様々な職業の社会的な役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。 （役割把握・認識能力） 将来の進路希望に基づいて当面の目標を立てて、その達成に向けて努力する。 （計画実行能力）	選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任が伴うことなどを理解する。 （選択能力） よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して、自ら課題を見いだしていくことの大切さを理解する。 （課題解決能力）	【see you again（総）】 小学校のとき出会ってきた地域の人との学習をふり振り返り、GTが伝えたかったことについて交流することを知り、再び出会い直して、もっと聞きたいことや知りたいこと、仕事や役割に対する思いなど、さらに深い部分について学習を進める。学習にあたっては、自分たちで協力して連絡調整を行い、学習計画を立て、実行させていくようにする。
中2		人目標を持ち働いている	②集団や社会の中における自分の立場についての理解を深め、勤務観や職業観を形成することができる。					【Design in the future（総・特）】 様々な職業について調べ、職業について興味関心を高め、職業の社会的な役割や意義を考えるための学習を展開する。また、学習を通して、自分や友だちの特性や個性についても理解できるようにし、相互理解が深まるようにする。
中3		人夢に向かって生きてきた	③自分のよりよい生き方についてイメージを持ち、具体的な方策を実行することができる。					【Fun Fun 修学旅行（総・特・道）】 2年生3学期に似ひき続き、修学旅行の充実に向けた学習を行う。そして、修学旅行後は修学旅行で学んだことをテーマごとにまとめ、それぞれの学びを交流する場を設定する。また、修学旅行を通して自由には役割や責任が伴うことを実感させるようにする。 【私の道（総・特）】 夢を持ち、その実現のために懸命に生きてきた人の生き方に触れ、自分の生き方や進路について考えを深める学習を展開する。生き方モデルとなる人の生き様をまとめる活動を通して、夢実現のために必要なものを学び取ったり、互いの考えを交流してより充実した学校生活を送れるようになる。

2 学期	3 学期
【大切な名前（道・生・国）】 お家の人から、自分の名前の由来や名前に込められた願いなどを聞き書きする。それを作文にまとめ、発表会をすることで、自分と同じように、友だちも大切な存在であることを理解する。その後、お家の人に感謝の気持ちを手紙で伝え、戻ってきたお家の人からの手紙を読むことで、さらにお家の人の愛情を感じることができる。 【小松菜パーティー（生）】 地域の方から小松菜の育て方について教えてもらう中で、命の大切さや食の大切さを学ぶ。その後、成長した小松菜を収穫し、自分対で調理し小松菜パーティーをするとともに、地域の方への感謝の気持ちを伝える。	【わたしのたからもの（国）】 お家の人からもらった宝物について作文に書き、文集にまとめることで友だちの宝物についても知る。 【新1年生体験入学（生・図・国・算）】 新1年生を迎えてお店屋さんごっこをする。新1年生が喜ぶようにお店や品物を工夫するとともに、役割を決めて楽しく活動が行えるようにする。
【イモほり・おいもパーティー（生）】 校区の「やきいも名人」の方や、中学生に支援してもらいながら、いもほりややきいもパーティーの活動に取り組み、収穫の喜びを共有しあい、いままでの活動を振り返るとともに、支援してもらった人への感謝の気持ちを持つ。 【あったらいいな（国）】【へそのお（道）】【すてきな自分を知ってほしい（生）】 成長をふりかえることにより、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割がふえたことなどがわかり、これまでの自分の成長を支えてくれた人々への感謝の気持ちを持ち、これからの生活に夢や希望を持ち、それを表現できるようにする。	【小学校って楽しいよ（生）】（保育園児との交流） 1年前の自分を想起し、入学前の期待や不安を思い出しながら、入学予定の保育園の子どもたちを暖かく迎えようとする意欲を持つ。交流活動の計画を立て、小学校の生活や学習の内容について教えてあげたいこと、伝えたいことを話し合ったり、一緒に楽しむことを工夫したりする。保育園児や、保育士との交流は、自分の成長を再確認する機会ともなる。
【鎮西の宝をみつけよう パート2 ～私たちの伝統文化～】 地域に根ざした伝統文化に携わっている人に、インタビューなどの主体的な学習を展開し、伝統文化を継承することの役割や必要性を学ぶ。この学習の中では、主体的な学習方法や態度を身につけさせるようにする。	【身近な人たちの仕事（総）】 家族から働くことでの苦労や喜びなどについて聞き書きをし、交流会を実施する。また、保護者の思いや願いを受け止め、将来に向かっての展望を持つ。交流会では、これまでの学習を活かして友だちと協力しながら、互いに役割分担して、自分たちで交流会を成功できるようにする。また、今まで学習してきたことをふりかえり、家族をはじめ自分たちを支えてくれている全ての人に感謝の気持ちを持つ。
【伝えあう心（総）】 車いす、アイマスク、点字、手話の体験をし、それに関わっている方（ボランティア団体等）や、実際に障害のある方から話を聞いたりする活動を通して、傷害の有無に関わらず、人と人とのつながりを持つことの重要性がわかり、障害のある人との関わりを積極的に持とうとする。 【10才を祝おう（国）】 生まれてから10年という節目に、お家の方からこれまでの自分の成長について話を聞き、自分自身の今までの様子を振り返ったり、これからの自分自身について考えていったりする。また、発表会を通して、お家の人への感謝の気持ちや、学んだことを伝える。	【鎮西環境調査隊パート2（総）】 1学期に学習したことをもとに、実際に活動されているゲストティーチャーの思いにふれ、自分たちができるエコ活動に取り組む。
【やってみようわたしにできるボランティア（総）】 地域の方と一緒に成道寺公園で清掃のボランティア活動をし、改めて成道寺公園で清掃活動が始まったわけなどを「土曜日の会」の方に聞く。これまでに聞いた話や成道寺公園でのボランティア活動をもとに、自分たちにできるボランティア活動を話し合う。そこで、保育園にボランティアに行くために、地域の方から折り紙の折り方を教わるとともに、ボランティア活動の話も聞く。その上で、保育園を訪問し、園児と交流する。	【新1年生体験給食（総）】 新1年生の体験給食で、これまでのボランティア活動で学んだことを生かしてお世話をを行う。
【戦争と平和について考えよう（総）】 今までの平和学習をふりかえり「原子爆弾」や「核兵器」について調べる。 長崎の町のフィールドワークでどのような学習を進めていくのか計画し、調べ学習を進める。「平和」についての自分の考えをまとめ発表会を開く。 【夢に向かって（総）】 夢に向かって努力している人や夢を実現している人から話を聞くことで自分の将来について考えていく。聞き書きしたことから自分が考えたことをまとめる。	【夢にむかって（総）】 人との出会いの中で学んだ事をまとめ全校児童や保護者、地域の人に発表する。 【感謝の気持ちを伝えよう】 卒業するにあたって今まで育ててくれた家族、お世話になった地域の人、先生方、在校生にどのような形で感謝の気持ちを伝えるか考え、実践する。 〔※中学校体験入学〕
【second discovery（総・特）】 1学期の学習から、これまで出会ってきた人の考え方や想い、願いについて整理し、小学校のときに感じていたことと、現在学習して感じたことを比較し、自分の成長について考える。また、学習を通して学校生活の中での自分の役割や責任について考え、よりよい学校生活を送るためのルール作りや役割分担について話し合う。 【イモ掘り・おいもパーティー（総・特）】 小学校2年生とイモ掘りを行い、2年生にメッセージを送る。	【message for 6年生（総・特・道）】 がんばったところ、努力が足りなかったところ、充実していたことなど中学校での1年間の生活をふり振り返り、自分たちの成長について交流する。そして、中学入学を控えた小学校6年生に向け、中学校生活の魅力や中学入学にあたっての心構えなどをまとめ、伝える学習に取り組む。
【Design in the future（総・特）】 職場体験学習を実施し、それぞれ学んだことを交流する。そして、職業の社会的役割や意義を通して、自分たちの学校生活をよりよくするための方策について考え、実行するようにする。職場体験にあたっては、自分が体験したい職業を選んで、職場に自分で連絡をとり、職場体験の依頼を行わせるようにする。学習の後半では、自分の希望する進路に基づいた目標を立て、その達成に向けて継続的に努力できるよう点検活動などを行うようにさせる。	【Fun Fun 修学旅行（総・特）】 楽しく、充実した修学旅行とするために、必要なものを話し合い、仲間と協力しながら学習活動を創造する学習を行う。また、必要な情報を様々なメディアから収集整理し、修学旅行をより充実したものにするために活用できるようにする。修学旅行実施に向けた仲間作りを通して、人間関係づくりに必要なコミュニケーションスキルを取得する。
【私の道（総・特）】 1学期の内容を継続実施。 【上級学校調べ・体験授業（総・特）】 志望する高等学校について調べたり、高等学校の授業を体験したりして、自らの課題を見つける。そして、目標達成に向けて努力する項目を設定するようにする。	【私の道（総・特・道）】 これまでの学習をふり振り返り、人の生き方や価値について、友だちと話し合う学習を行う。そして、中学校生活をふり振り返り、自分のこれからの進路や生き方についてもう一度考えを深め、言葉にまとめるようにする。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

田川市立鎮西小学校

これまでの同和教育実践や人権教育総合推進地域事業等の成果と手法への評価を踏まえて、学校種間の接続・一貫性を追求した実践事例である。

小学校からの実践事例だが、学校経営の基盤に、9年間を見通した中学校区としての①めざす子ども像、②研究主題が明確に位置付けられている点に特徴がある。さらに、①②の具現化を図るために、「第三次とりまとめ」に示された“人権が尊重される「学習活動」「人間関係」「環境」づくり”の観点に立った③推進組織(学力向上部会、「豊かな出会い」学習部会、学力の基盤づくり部会)がつくられ、各部会ごとに、小・中の発達段階を見通した目標や内容、子どもの姿(能力や態度)、効果的だった事例が示されていてわかりやすい。これらは、小中の連携はもとより、就学前と学校、中学校区と大学、学校と保護者・地域住民等が協働した教育力の総合化の取組の成果であり、多様なヒントと示唆を与えている。